



【第42期初級陸曹特技課程「准看護師」戴帽式】

平成29年9月28日

自衛隊札幌病院（病院長：上部陸将）は、平成29年9月28日（木）、北部方面総監部医務官を初め、同人事課長、教育班長、北部方面隊最先任上級曹長、北部方面衛生隊長及び同最先任上級曹長等多数の関係者が臨席する中、第42期准看護学生の戴帽式を挙行了した。

厳正な雰囲気の中、真新しい看護衣に身を包んだ25名（男子：14名、女子：11名）は、看護教官からひとりひとりにナースキャップを戴いた後、学生長の指揮のもと衛生科精神を唱和した。今後、医療従事者として臨地実習の場へ新たな一歩を踏み出す。

式にあたり、病院長から、人との関わりに「温かい思い遣り」を持って臨み、整った環境はもとより野戦であろうとも常に平常心で己の技能を最大限発揮できる識能を磨くよう、「人に関心を持つ」「何事にも動じない心を磨け」の2点、准看護学院長から、受身に陥らず積極的に学び、医療従事者としての基礎を築き、実習に際し「准看護師の資格をもつ自衛官になり国民の負託に応えるという覚悟を新たにしていって臨め」が要望された。



戴帽の儀



戴帽の儀



自衛隊札幌病院長（上部陸将）訓示



准看護学院長（岩本1佐）式辞



来賓及び病院関係者との記念撮影



第42期記念撮影

